令和２年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人兵庫教育大学

１ 全体評価

兵庫教育大学は、教員の資質能力の向上と学校教育の改善を求める社会的要請に応えるため、「現職教員に対する専門職として高度な専門性と実践的指導力の育成」「実践力と人間性に優れた新人教員及び心理専門職の養成」「学校教育に関する理論と実践を融合した研究（教育実践学）の推進」「教員養成・研修の先導的モデルの構築」「教育研究成果の発信」を使命としている。第３期中期目標期間においては、教員養成・研修の高度化を最重要課題とする中核的な機関として、学校現場に密接に関連した実践的な教育研究を行うことを基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、「教科担任制」を、附属小学校において令和２年度に全学年で実施するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第３期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、令和２年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

○　大学院修士課程においては、学生確保及び人材育成における質保証を目的として、令和２年度から、臨床心理学コースの昼間クラスを神戸ハーバーランドキャンパスへ移転させ、神戸ハーバーランドキャンパスの拡充をはじめ、教員スペース等の施設整備を実施している。

また、Society5.0 時代に対応するため、先端教育研究開発コアに STEAM 教育の実践者の養成と学校におけるリーダー教員の養成を目指すための大学・大学院の在り方について検討を行う「STEAM 教育検討チーム」を設置し、大学院のカリキュラムの在り方等について検討を行っている。

さらに、Society5.0 時代の到来を見据え、オンライン授業と対面授業を組み合わせた授業の実施方法の検討を行い、令和３年度からのハイブリッド授業等の実施方針（学部を含む）を作成している。（ユニット「全国最大規模の教職大学院をさらに拡充し、卓越教職大学院へ」に関する取組）

2 項目別評価

＜評価結果の概況＞

	特　筆	一定の注目事項	順　調	おおむね順調	遅れ	重大な改善事項
（１）業務運営の改善及び効率化			○			
（２）財務内容の改善			○			
（３）自己点検・評価及び情報提供			○			
（４）その他業務運営			○			

Ⅰ．業務運営・財務内容等の状況

（１）業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善　②教育研究組織の見直し　③女性の活躍・男女共同参画　④事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由）　年度計画の記載11事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

（２）財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加　②経費の抑制　③資産の運用管理の改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由）　年度計画の記載５事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

（３）自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実　②情報公開や情報発信等の推進

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由）　年度計画の記載３事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

（４）その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等　②安全管理　③法令遵守等

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由）　年度計画の記載７事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ．教育研究等の質の向上の状況

令和２年度の実績のうち、下記の事項について**注目**される。

○ 教科担任制の取組

「教科担任制」を、附属小学校において全学年で実施した結果、教員自身が主担当とする教科に専門的にかかわることができ、教科の指導法の研究が進んだ。同じ授業を複数回複数の学級で行い、複数の学年の担当教科に責任を持つことで、教科の系統性とその広がりを教員自身が学ぶことができている。児童にとっての教科担任制の効果として、教員が一人一人の子供に各教科の授業をとおして丁寧にかかわるため、子供にとっては自身の良さを多面的に評価してもらえる機会が増えている。